

# さきたま古墳公園における「子どもの遊び場」の整備事業に係る 民間活力導入検討に関するサウンディング型市場調査

---

## 基礎資料 (追加資料: 市民意向調査結果)

---

2026年 1月

行田市 健康福祉部 子ども未来課

○行田市内の子どもの遊び場等の利用実態を把握するとともに、さきたま古墳公園における子どもの遊び場の整備等に関するニーズ等を調査した。

## ▼調査概要

回答期間	12月9日～12月23日
調査方法	WEBアンケート
回答対象者	行田市民を中心とした公園利用者
回答者数	648件
実施内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・行田市の子どもの遊び場の利用状況や他市との差別化のポイント、課題・ポテンシャルを確認する。</li><li>・さきたま古墳公園の周知度や訪問歴の有無などの利用状況等を確認する。</li><li>・基本構想及び基本計画における導入機能の検討にあたって、求める遊び場像や必要な機能、施設について意見を伺う。</li></ul>
周知方法	行田市HPやSNS媒体等

さきたま古墳公園「子どもの遊び場」整備  
についてのアンケートを実施します

いいね! シェアする X ポスト

更新日：2025年12月09日

### さきたま古墳公園「子どもの遊び場」整備のアンケートについて

市では、さきたま古墳公園内に季節や天候を問わず楽しめる、屋内外型遊び場を含めた「子どもの遊び場」の整備を進めています。多くの方にとってより良い遊び場となるようアンケートのご協力をお願いします。

#### 回答期間

令和7年12月9日（火曜日）から令和7年12月23日（火曜日）まで

#### 回答方法

以下のURLにアクセスし、回答してください。

<https://forms.office.com/r/zW8QUawAfN>



#### 関連ページ

● さきたま古墳公園「子どもの遊び場」整備の概要について

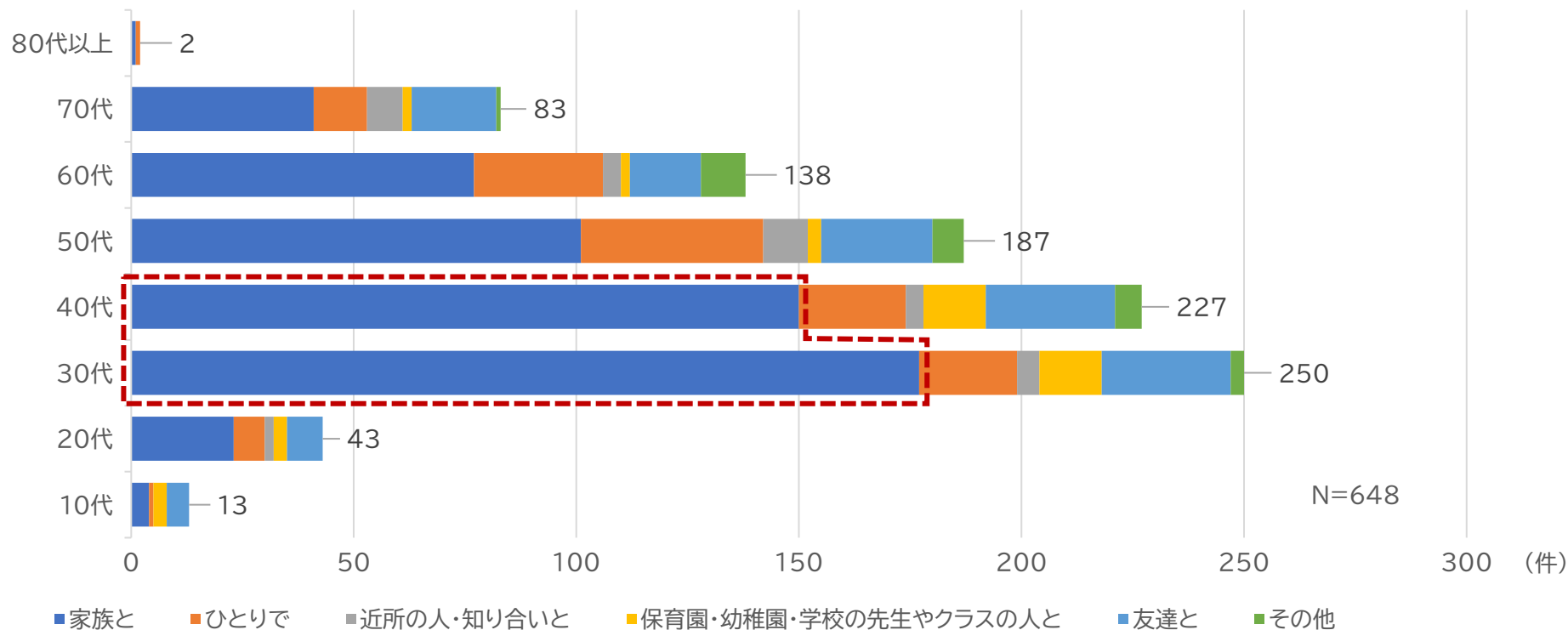
## 2. 市民意向調査の結果

### 1. さきたま古墳公園の利用状況

<年代別>

①年代別×さきたま古墳公園に「誰と」訪れるか(複数選択可)

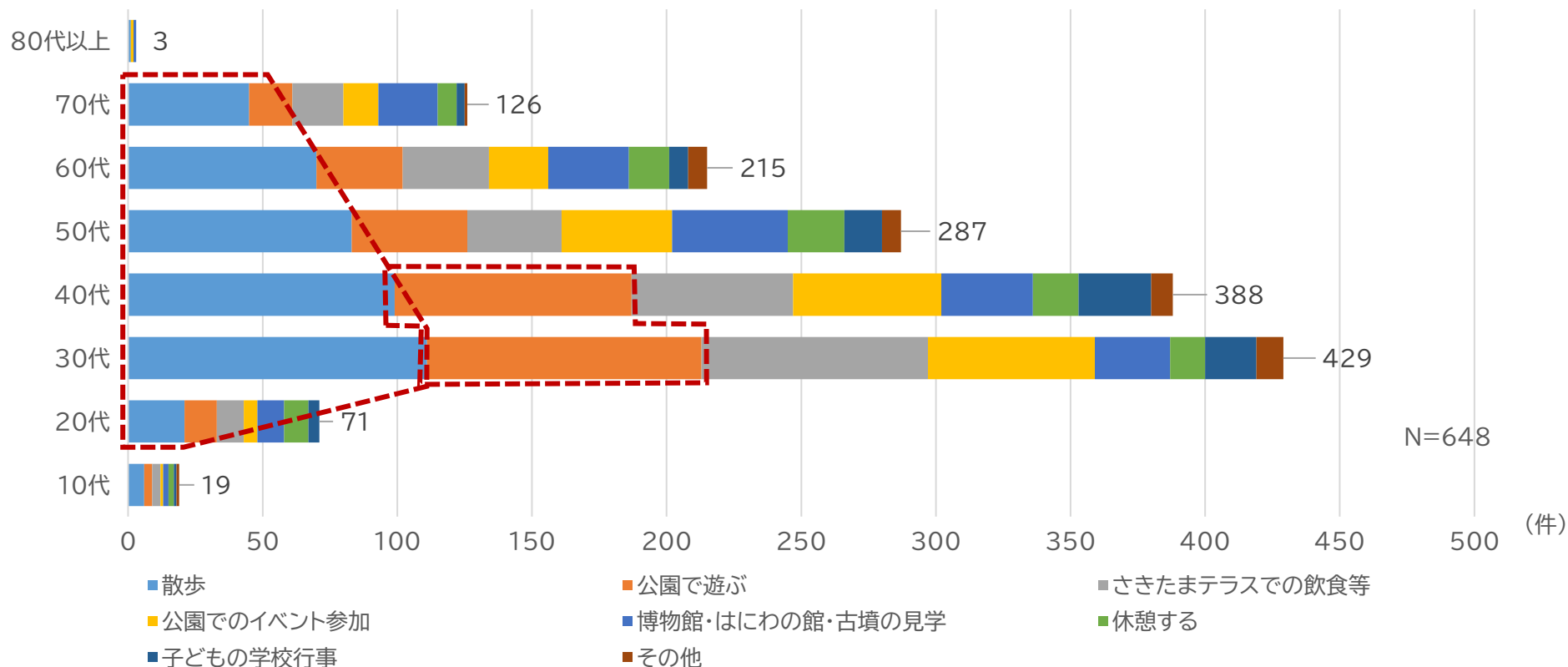
- ・ **特に30-40代の「家族と」が多く、子連れファミリーが利用の中心**と捉えられる。
- ・ 他年代も「家族と」が多く、どの年代も「ひとりで」「友人と」が一定数確認できる。
- ・ 他年代と比較して50代・60代は「ひとりで」が多い。
- ・ 他年代と比較して30代・40代は「保育園・幼稚園・学校の先生やクラスの人と」が多い。



## 2. 市民意向調査の結果

### ② 年代 × さきたま古墳公園への来訪目的(複数選択可)

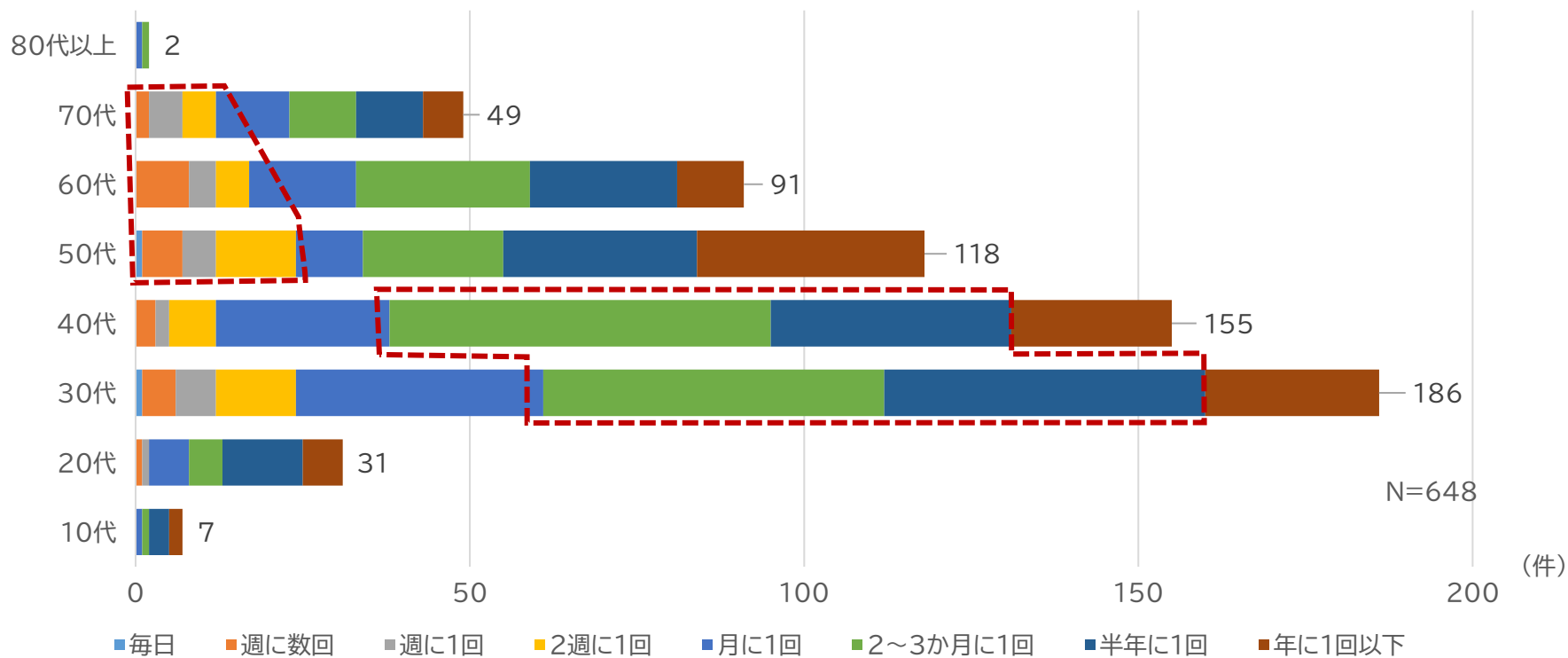
- **どの年代も「散歩」が最も多く、ボリュームゾーンの30代～40代は次いで「公園で遊ぶ」が多い。**
- どの年代も「さきたまテラスでの飲食」「公園でのイベント参加」「博物館・はにわの館・古墳の見学」が一定数確認できる。
- 50代～70代は、40代以下と比べると「博物館・はにわの館・古墳の見学」の回答割合が大きい傾向。



## 2. 市民意向調査の結果

### ③ 年代 × さきたま古墳公園への来訪頻度

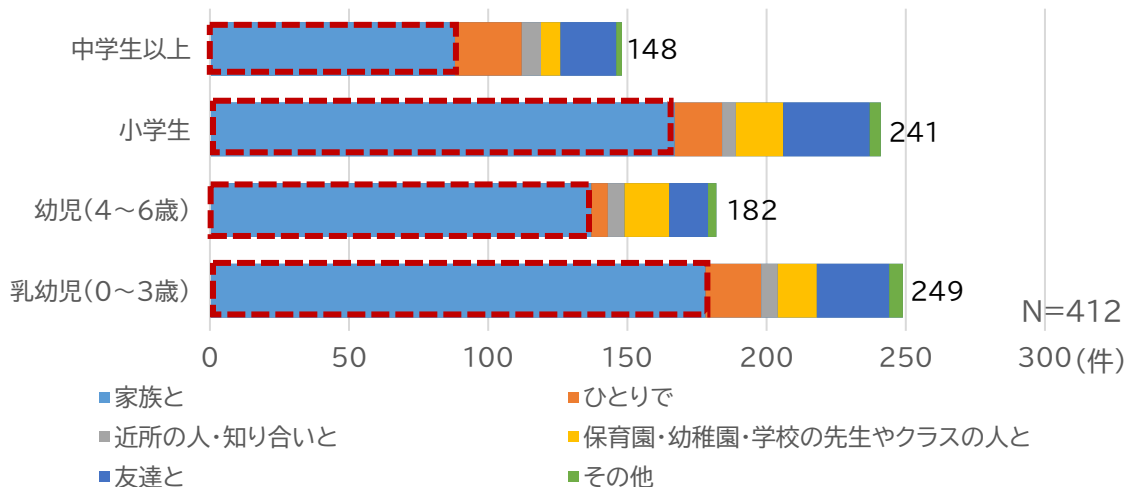
- ・**30代～40代は、「2～3か月に1回」「半年に1回」が多く、週末利用と考えられる。**
- ・**50代以上は、他年代と比較して、「週に数回」～「2週に1回」の回答割合が高くなり、日常的な利用が多くなる傾向。**



## 2. 市民意向調査の結果

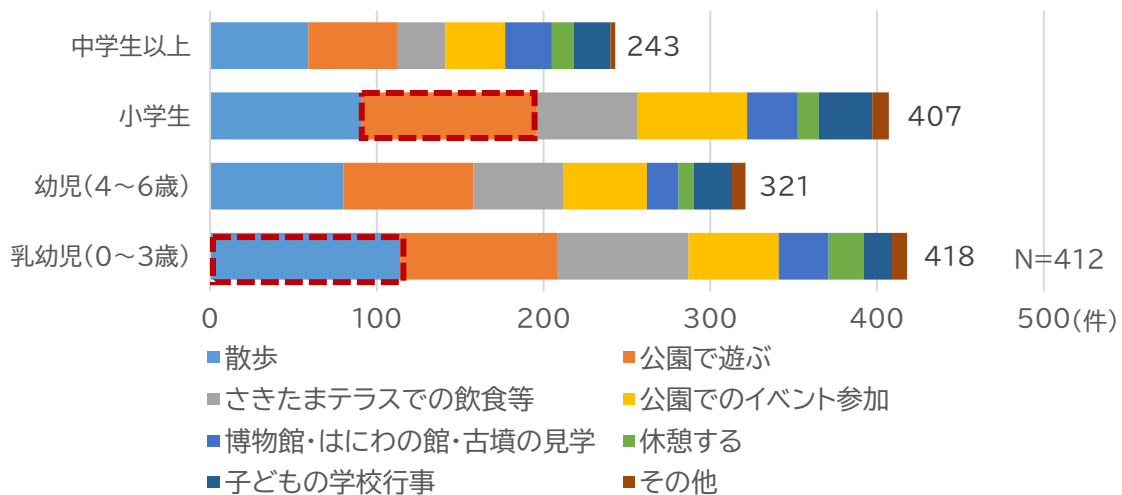
### <子ども年齢別>

#### ① 子どもの年齢(複数選択可) × さきたま古墳公園への誰と訪れるか(複数選択可)



- ・ いずれの年齢も「家族と」が最も多い。
- ・ 中学生以上の子どもがいる方は「ひとりで」、小学生・乳幼児(0~3歳)の子どもがいる方は「友人と」、幼児(4歳~6歳)は「保育園・幼稚園・学校の先生やクラスの人と」が次に多い。

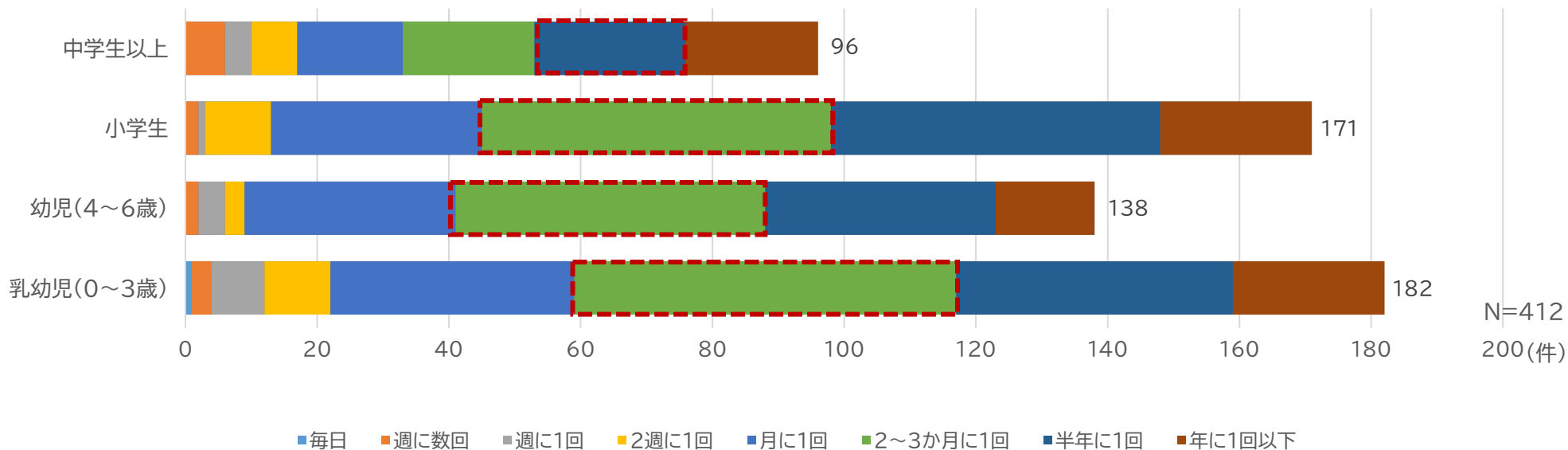
#### ② 子どもの年齢(複数選択可) × さきたま古墳公園への来訪目的(複数選択可)



- ・ どの年齢も「散歩」「公園で遊ぶ」が多いが、特に小学生は「公園で遊ぶ」が多く、乳幼児(0~3歳)は「散歩」が多い。
- ・ 中学生は他と比較して目的が分散傾向。

## 2. 市民意向調査の結果

### ③ 子どもの年齢(複数選択可) × さきたま古墳公園への来訪頻度



・小学生以下の子どもがいる方は「2~3か月に1回」が最も多い一方で、中学生以上の子どもがいる方は「半年に1回」が最も多く、小学生以下の子どもがいる方に比べて来訪頻度が少なくなる。

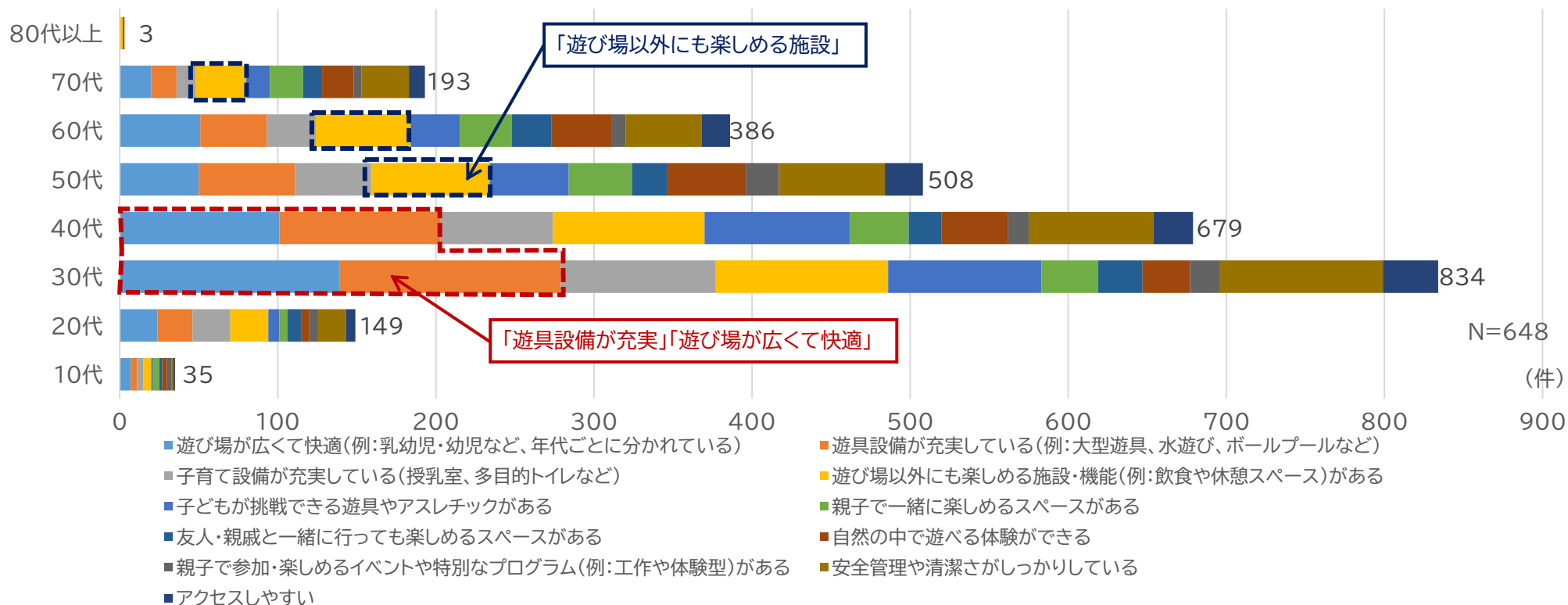
## 2. 市民意向調査の結果

### 2. 求める遊び場像や必要機能

<年代別>

① 年代 × 市の子どもの遊び場に求める機能(複数選択可)

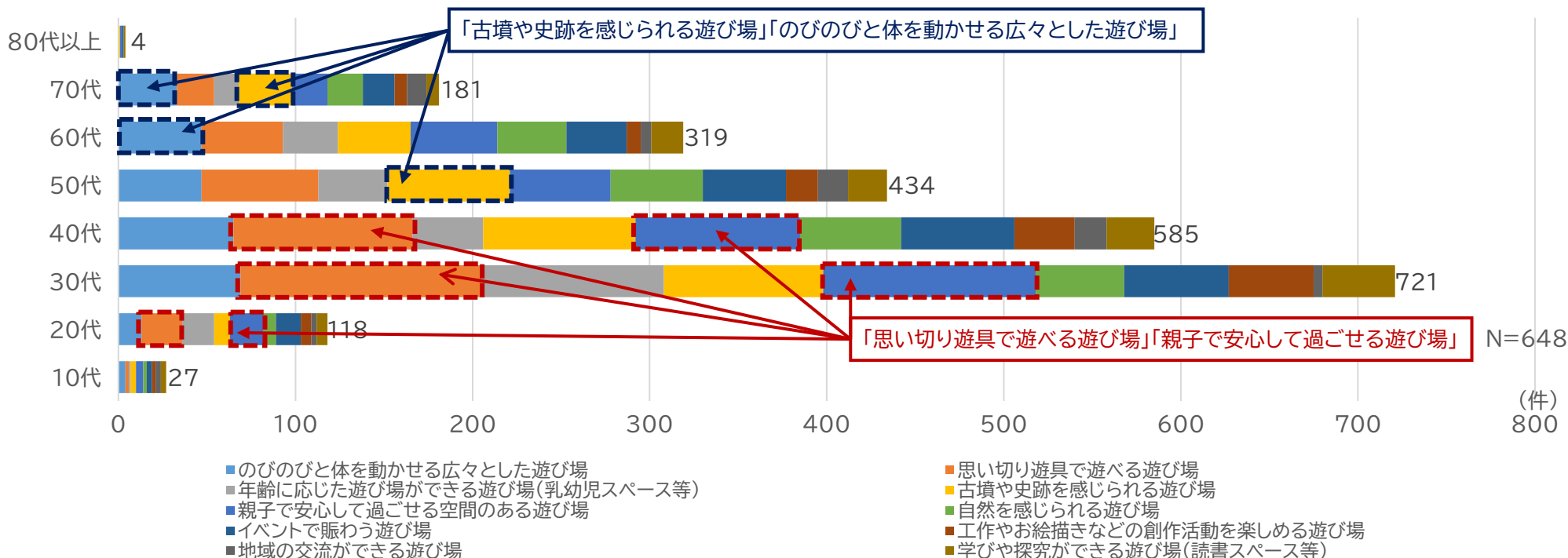
- ・30代～40代は、「遊具設備が充実」が最も多く、次いで「遊び場が広くて快適」が多い。
- ・一方で、50代～70代は「遊び場以外にも楽しめる施設」が最も多い。
- ・20代は「遊び場以外にも楽しめる施設」が最も多く、次いで「遊び場が広くて快適」が多い。



## 2. 市民意向調査の結果

### ② 年代 × 事業対象地に求める「子どもの遊び場イメージ」(複数選択可)

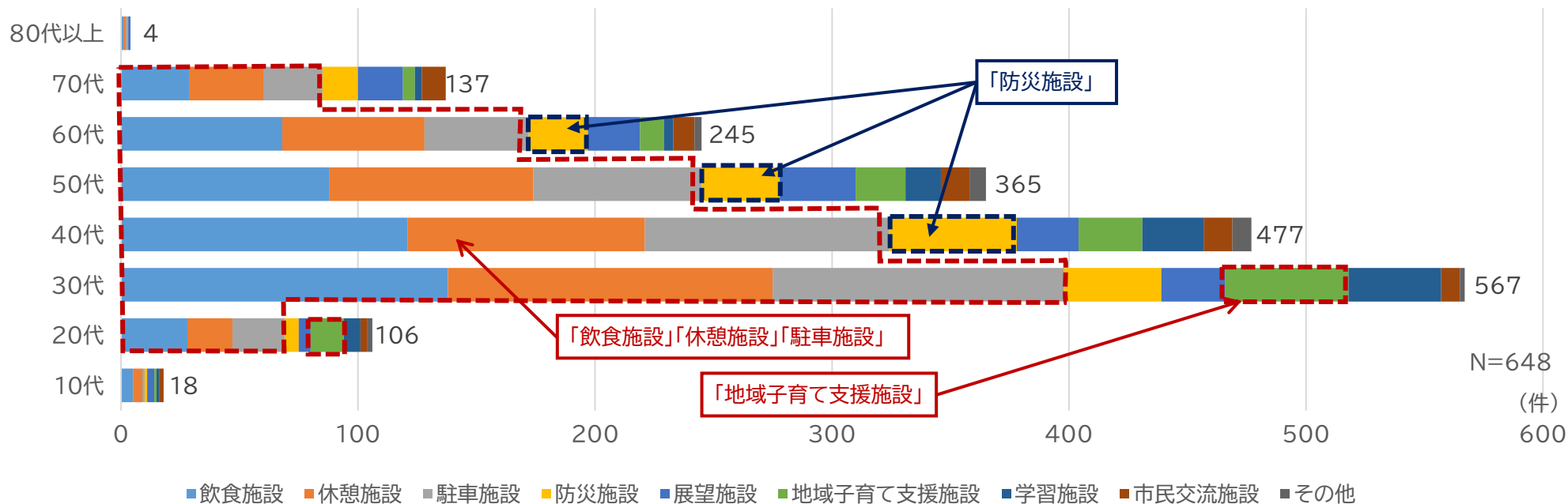
- ・20代～40代は、「思い切り遊具で遊べる遊び場」が最も多く、次いで「親子で安心して過ごせる遊び場」が多い。
- ・一方で、50代～70代では、「古墳や史跡を感じられる遊び場」や「のびのびと体を動かせる広々とした遊び場」など、20代～40代で上位に位置付けられなかった回答も多く確認した。



## 2. 市民意向調査の結果

### ③ 年代 × 事業対象地に一緒あるとよい「施設イメージ」(複数選択可)

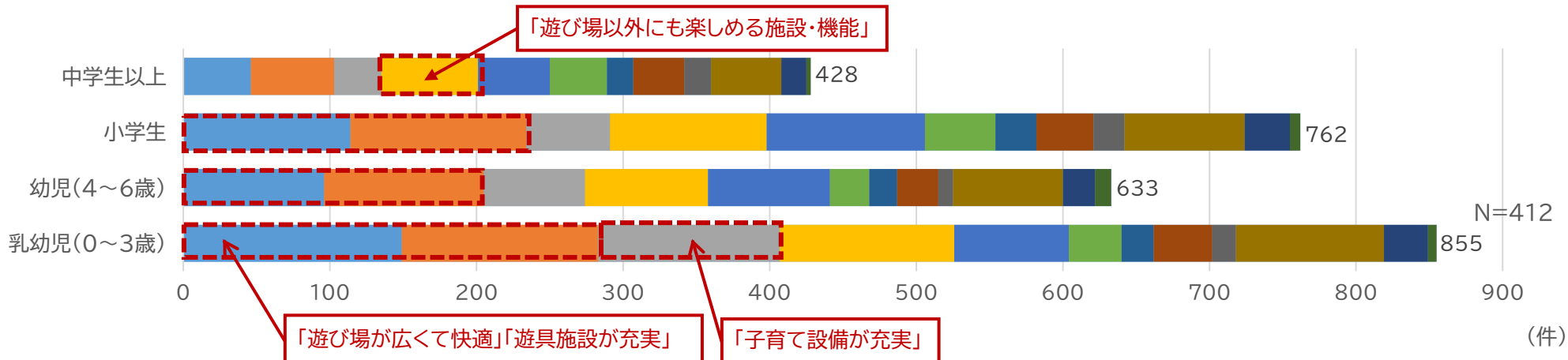
- ・20代～70代のどの年代においても、「飲食施設」「休憩施設」「駐車施設」が多い。
- ・それ以外の施設でみると、40代～60代は「防災施設」の回答割合が多いが、20代～30代は「地域子育て支援施設」が多い。



## 2. 市民意向調査の結果

### <子ども年齢別>

#### ① 子どもの年齢(複数選択可) × 市の子どもの遊び場に求める機能(複数選択可)

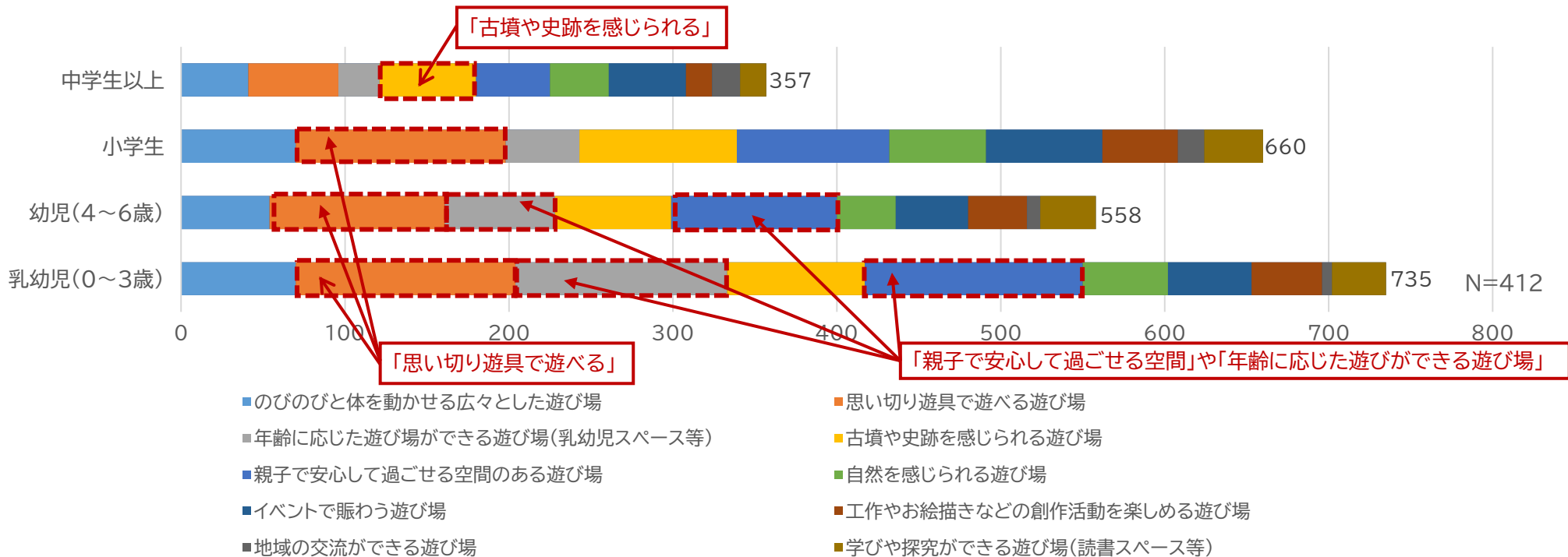


- 遊び場が広くて快適(例:乳幼児・幼児など、年代ごとに分かれている)
- 子育て設備が充実している(授乳室、多目的トイレなど)
- 子どもが挑戦できる遊具やアスレチックがある
- 友人・親戚と一緒にいっても楽しめるスペースがある
- 親子で参加・楽しめるイベントや特別なプログラム(例:工作や体験型)がある
- アクセスしやすい
- 遊具設備が充実している(例:大型遊具、水遊び、ボールプールなど)
- 遊び場以外にも楽しめる施設・機能(例:飲食や休憩スペース)がある
- 親子で一緒に楽しめるスペースがある
- 自然の中で遊べる体験ができる
- 安全管理や清潔さがしっかりしている
- その他

- ・中学生以上は「遊び場以外にも楽しめる施設・機能」が最も多い。
- ・小学生以下は、「遊び場が広くて快適」「遊具設備が充実」が多い。
- ・乳幼児(0~3歳)は他に比べて「子育て設備が充実」が多い。

## 2. 市民意向調査の結果

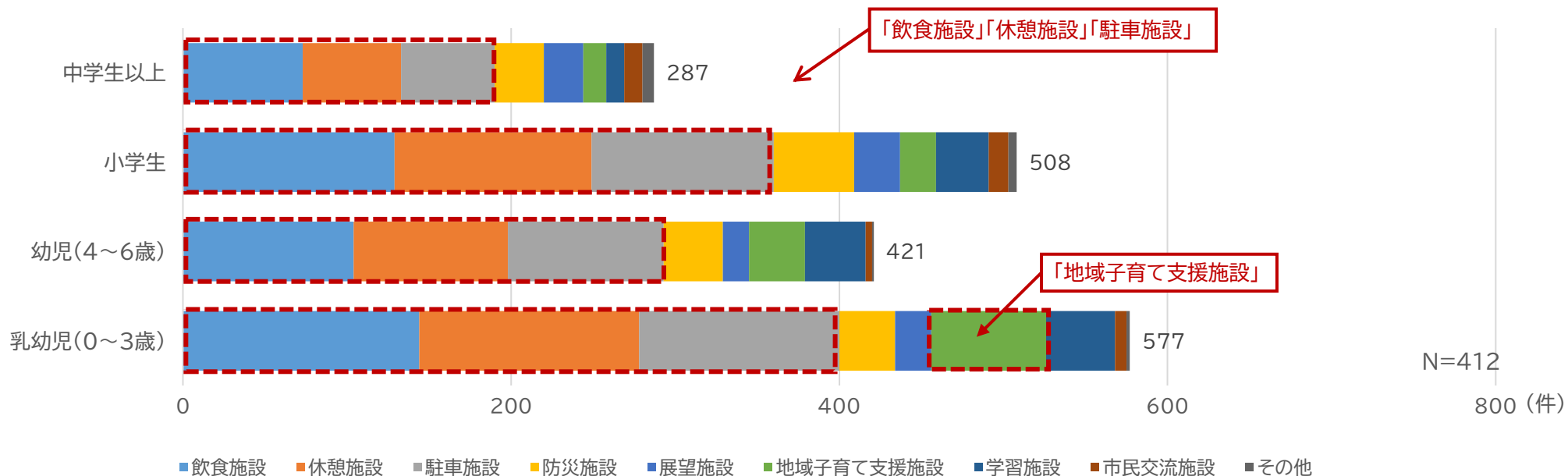
### ② 子どもの年齢(複数選択可) × 事業対象地に求める「子どもの遊び場イメージ」(複数選択可)



- ・中学生以上は「古墳や史跡を感じられる」が最も多い。
- ・小学生以下は「思い切り遊具で遊べる」が最も多い。
- ・幼児(4~6歳)以下は、他と比べて「親子で安心して過ごせる空間」や「年齢に応じた遊びができる遊び場」が多い。

## 2. 市民意向調査の結果

### ③ 子どもの年齢(複数選択可) × 事業対象地と一緒にあるとよい「施設イメージ」(複数選択可)



- いずれの年齢も「飲食施設」が最も多く、次いで「休憩施設」「駐車施設」が多い。
- 乳幼児(0~3歳)は、他と比べて「地域子育て支援施設」が多い。

○クロス集計結果から読み取れる属性別の需要の傾向は以下のとおり(※現時点の整理です)。

設問	属性		需要の傾向
①子どもの遊び場に求める機能 ②対象地に求める子どもの遊び場イメージ	年代別	20代	①「遊び場以外にも楽しめる施設」が多く、「遊び場が広くて快適」も同程度に多い ▶遊具以外の体験も求める“多目的志向”
		30～40代	①「遊具設備が充実」が最多、次いで「遊び場が広くて快適(例:年齢毎の分け等)」 ②「思い切り遊具で遊べる」が最多、次いで「親子で安心して過ごせる空間」 ▶アクティブ遊具+見守りやすい環境が重要
		50～70代	①「遊び場以外にも楽しめる施設」が最多 ▶散策・自然・休憩・歴史体験などに関心が高い
	子どもがいる方 (子ども年齢別)	中学生以上	②「古墳や史跡を感じられる」が最多 ▶古墳公園らしさへの需要
		小学生以下	②「思いきり遊具で遊べる」が最多 ▶大型・多機能遊具の需要
		幼児(4～6歳)以下	②「親子で安心して過ごせる空間」「年齢に応じた遊びができる」も多い ▶滞在の安心性が重要
③対象地に整備する遊び場と一緒にあるとよい施設			・「飲食施設」「休憩施設」「駐車施設」のニーズが全世代で高い ▶遊び場だけでなく、滞在価値を高める周辺機能が非常に重要 ・乳幼児(0～3歳)は「地域子育て支援施設」の需要も高い ▶子育て支援機能の需要